

上庄さといも



地理的表示保護制度 (GI)
平成29年11月10日登録



上庄さといも



里芋の栽培風景

福井県大野市上庄地区は、大野盆地の南部に位置し、東西6キロメートル、南北およそ12キロメートルの広大な地区であり、盆地特有の気候と真名川の豊かな水、排水の良好な土壌などサトイモ栽培に適した環境となっています。上庄さといもは当地区において代々栽培を受け継がれてきました。

この環境が大野在来の品種特性を最大限に発揮し、地区内のどのほ場でも高品質なサトイモが生産されることから、古くから「上庄さといも」の名称で流通してきました。

【特徴】

当地区で栽培されているサトイモは、土垂品種群に属する中生丸系の子芋用品種で「大野在来」と呼ばれています。

肉質が非常に緻密で固く締まっており、煮崩れしにくく、食べるともちもちとした独特の食感があります。

汚れを落とし薄皮を残した状態の小芋を醤油・みりん・砂糖などで煮込んだ「ころ煮（煮っ転がし）」は奥越の伝統料理です。



奥越の伝統料理「ころ煮」

【収穫時期】

10月～12月

【生産概要】

生産団体：テラル越前農業協同組合

生産者数：318名（H29見込）

代表者：代表理事組合長 松田義一

栽培面積：54ha（H29見込）